

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ： **戦略 2032**

2023年
7・8月



2023-24 年度 クラブテーマ「地域と繋がろう・地域に知らせよう」



埼玉クラブの7月キックオフ例会は記念すべき例会となった。古巣、浦和YMCAを会場に、日時も思い切って第3土曜日の午前10時に変更した最初の例会であった。また6月に解散した東京北クラブから頂いた万国旗のお披露目も叶った。「ジェンダー」をテーマにゲストたちと活発に意見交換できたし、久しぶりに職員の皆さんとも顔合わせが出来た。これからの1年に期待を持たせる例会だった。詳しくは諸報告をご覧ください。(写真下は職員の水上氏と坂室氏)



今月の聖句

信仰が無ければ、神に喜ばれることはできません。信仰に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければなりません。

(ヘブル人への手紙 11章6節)

8月「シャローム」例会案内

日時：8月19日(土)午前10時～12時

会場：ZOOM

プログラム：「ジェンダーを学ぶ(2)」

夜談会(語らいと親睦の集い)

8月：14日(月)午後6時～8時(済)

会場：青蓮(さいたま新都心けやき広場)

9月：11日(月)午後6時～8時

会場：サイゼリア(浦和駅東口)

～ メンズ・エッセー ～

◆ 「ジェンダーについて」考える

上松寛茂



ジェンダーって何？ ネットで調べると、生物学的な性（SEX）とは異なる多義的な概念で、性別に関する社会的規範と性差を指す一とある。性別に対して社会的、文化的に造られる性別という定義。「男らしさ」、「女らしさ」、具体的には「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という古今東西、培われてきた男女の社会的規範が従来の考え方でいいのか、という問い掛けでもある。社会的・文化的な意味での性差に対する固定概念や偏見を「ジェンダーバイアス」というらしい。

2015年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）でも17ある目標のうちの一つ「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」を掲げている。要は男、女である前に一人の人間として捉える。新約聖書ガラテヤの信徒への手紙3章には「男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」と記されている。

男女平等が声高に叫ばれ、形の上では男女雇用機会均等法が制定され、内閣に女性共同参画室を設置、格差是正に官民共に取り組んではいるものの遅々として進まない現状もある。それでも女性の社会進出は急速に進み、例えば筆者の勤務したマスコミ業界では入社当時、女性記者・カメラマンはごくわずかだったが、現在は新卒入社で女性上位の年もあるとか。松山支局でデスクをしていた頃、新卒入社で赴任してきた女性記者は現在社会部長。民放各社でも女性の政治部長も珍しくない。そうした中でセクハラ、パワハラも激増傾向にあるようだ。普段、気付かずに話す何気ない言葉に傷付くケースが増え、悲しく、情けない人間社会の落とし穴を見る思いだ。女性の社会進出に伴い、夫婦の役割分担も互いに助け合う思想は確実に理解が増しているように思う。それともう一つの性。身体の性と性自認が一致していないトランスジェンダー。生まれた時の身体的な性別は男性だが、自分のことを女性と認識しているケースやその逆のケースなど「性同一性障害」とも呼ばれ、ただこれは「障害」ではなく、「性別異和」と米精神医学会は表現、2022年発行の国際疾病分類改訂版は、「性の健康に関する状態」という分類の中の「性別不合」に変更された経緯があり、LGBTQという言葉もある。L=レズビアン、G=ゲイ、B=バイセクシャル、T=トランスジェンダー、Q=クィア（クエスチョニング）性的マイノリティの総称。自身で認識する性が定まっておらず、問うている状態の人。

先ごろ、経済産業省の女性自認の男性職員の役所

での女性トイレの使用をめぐる裁判で最高裁は、役所の使用制限は違法という判決を出すなど、この問題は筆者の思考範囲を超えそうな課題なので埼玉ワイズのこれからの勉強会でじっくり取り組みたいと考えている。

◆ 「ジェンダー学習への期待」

衣笠輝夫



女性にとって、ジェンダーに対する関心、勉強会は多く行われているが、男性にとっては、まだまだ主たる関心事になっていない状況の中で、埼玉クラブがジェンダーへの関わり、勉強会を行う意義は極めて高い。勉強によって私たちがなげなく言う言葉が、相手を傷つけたりするマイクロアグレッションがあることにも気づき、深く受け止めておきたい。

◆ 「いまさら？ そう。いまさら！」

浅羽俊一郎

そもそもジェンダーを当クラブと一緒に学ぼう、と提案したのはいくつか理由がある。

- 1) ここ30年以上国連機関は多岐にわたる事業にジェンダーは外せない視点としている。一方ワイズ運動は見識と国際性を掲げつつ、確かに女性差別は見られないが、テーマとして取り組んだという話は聞かない。さらに圧倒的多数は男である。
- 2) 行政と業界がSDGsに力を入れて、学校やメディアも負けまい、と頑張っている。17の目標の中でジェンダーはあまり取り上げられず、男女格差はまだ大きい。なら一層のこと、日本では参加団体が17の目標からテーマを選ぶだけでなく、ジェンダーを共通の課題にすれば社会へのインパクトが大きくなるかもしれない。埼玉ワイズがジェンダーを学ぶと言えば、「へえっ？」と関心を持たれるかもしれない。* SDGsは2030年が最終年。
- 3) 自分としては苦手なテーマで、自分でコツコツ取り組むことは考えられない。ではこの際、他メンバーにお願いしてクラブとして取り組めないか。クラブ内で話し合えば、きっと様々な意見が出るし、独りよがりにならずに済む。さらに外に発信するとなれば、真剣な議論になろうというものだ。

「何をいまさら」と言いたい輩に対して、埼玉クラブの翁たちは敢えて「いや、いまさらだからこそ」と堂々と開き直って言えるようになりたい。今後の成長をどうぞフォローして下さい。

* 「ジェンダー問題」へのクラブの取り組みを適宜ブリーフで紹介します。（編集担当）



諸報告

1. 7月定例会

キックオフ例会は15日(土)午前10時~12時に浦和YMCAで開催。当日は浅羽の知合いの地域活動関係者4名がゲスト参加。元東京北クラブの小仁恵子メン(現東京グリーン)がビジター参加し万国旗の贈呈を受けることが出来た。男女8人はそれぞれ生活と仕事の体験の豊富な世代。テキストを離れて言いたいこと、言い返したいことが次々と出てくる。男所帯の当クラブだが、例会には異性の参加を期待したい。本紙1ページ写真参照。(浅羽 記)

2. 第1回Y/Ys協議会

当会議は初の試みとして7月22日(土)オン・ラインで開催。

長尾部長の副題に「YMCAとY'sの協働で、目指そう地域に繋がる奉仕を」とある。ワイズメンズクラブは、YMCAをサポートするクラブであり、2023/2024年度の山田公平理事もYMCAとのミッションパートナーとしての意識を強調されている。ワイズとYMCAの共同作業がワイズ活動の幅を広げていくものと考えられ、ワイズとYMCAが互いに期待することや困ったことなどを話し合うこの機会はとても有効なものになるだろう。今後は隔月での開催が予定されている。(衣笠 記)

3. 第1回関東東部評議会



本評議会は7月29日(土)昼過ぎから東京YMCA東陽町センターにて対面で開催された。

今年度は山田理事の方針に沿ってユース事業が大きく変わる極めて重要な年度になる。しかしどう変わるのかユース事業主査の出席がなく、今年度のユース事業概要があまり伝わっていないように思えた。関東東部が乗り遅れないよう情報を共有していくことが求められている。

埼玉クラブ出席: 上松、衣笠 (衣笠 記)

4. 8月夜談会

8月14日(月)新都心駅けやき広場の「青蓮」に当クラブメンバーと顔なじみが集まり、尽きることなく話に没頭した。浅羽会長はオン・ラインで出張先のフェルネ・ヴォルテール町から参加。主たるテーマは「ジェンダー」。それぞれの体験や立場から様々な意見が出て面白い。メモ係の浅羽も話に夢中で手は止まったまま。他の話題としてはYMCAが社会の貧困層にフォーカスしていないことや、ワイ

ズも「この指止まれ」の指役がないことなど。

* 夜談会は今後会場を浦和駅周辺(例えば東口「サイゼリア」)に移し、割り勘でなく、別々に支払うことになった。「青蓮」に感謝。(浅羽 記)



YMCAの小窓から

4月より浦和センターでは、中高生を対象に木曜日に体力増進クラス、金曜日にライフスキルクラスを行っています。体力増進クラスでは、有酸素運動や筋力トレーニング、サーキットトレーニングなどを行い、基礎体力の増進を目指すクラスです。4月のクラスでは、自分の体力を数値化するために、体力測定を行いました。今年度のクラスでは、あと2回(9月・3月)に、体力測定を行う予定です。子どもたちは、前回よりも体力測定の記録を伸ばすために、有酸素運動やバランスアップのトレーニングに励んでいます。また仲間と一緒に活動することにより、仲間の大切さ、思いやりなども学んでいます。

ライフスキルクラスでは、卒業を見据え、社会に出て組織の一員としての基本対応について学ぶクラスです。クラスでは、職場での電話対応の仕方や、職場での会話の基本について学んでいます。

両クラスとも、参加している子どもたちはいきいきと楽しんで活動しています。ぜひワイズの皆さんには浦和センターへ来て、クラスを見てくださることを楽しみにしております。(職員 長谷川洋輔)





お便り

お知らせ

◆ 塀和光二郎メン (俳号 愚道)

今月の俳句

① もみじ饅頭鶴のお返し広島忌

無事に千羽鶴を今年も広島に届けましたが、もみじ饅頭で思い返していただければ幸いです。

② 盆踊り前の人みて我がふり直す

4年ぶりの盆踊り踊りもぎこちなく前の上手な方のふりを見て踊ります。

③ 大玉の花火の空間宇宙船

大玉の花火が上がった瞬間は無重力空間のような拮りがありました。

◆ 浅羽俊一郎メン

「クラブテーマを思う」

今年度のクラブテーマを勝手に「地域と繋がろう・地域に知らせよう」とさせてもらった。2年前が「地域と繋がろう・地域に知られよう」、昨年度は「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」だった。高齢化に伴い行動半径こそ狭くなったが、議論は活発、主張もぶつけ合える。それならここで議論していることを発信し「知らせよう」と考えた。

日本人は「場」の空気を読んで発言するか否かを決めるきらいがあるだけに、空気を怖れないワイズはユニークな場だと思う。

◆ AYC 2023

AYC 2023 が8月25日～29日にかけて、ネパール・カトマンズで開催される。画期的なことに東日本区から13人、西日本区から4人、計17人のユースが日本チームとして参加する。東日本区から参加する顔ぶれも多彩で、中大学Y5人、立教学Y2人、東京YMCAリーダー2人、とちぎYMCAリーダー1人、山梨YMCAユーススタッフ1人、一般大学生2人の計13人となる。ワイズメンズクラブもしっかりとした支援体制で臨みたい。(衣笠 記)

◆ 9月埼玉3クラブ合同例会

9月例会は9日(土)に所沢YMCAを会場に埼玉、川越、所沢の3クラブの合同例会を予定している。合同例会は昨年5月に野村路子氏の講演会以来だ。例会には長尾部長の公式訪問も予定している。閉会后4月に新規オープンした「子育て・子育てセンター」をも見学することになっている。

◆ 第35回 ユースボランティア・リーダーズフォーラム (YVLF)

今回で35回目となるYVLFは9月29日から10月1日まで東京YMCA山中湖センターで開催される。経験の浅いリーダーたちが東日本区内の各地のYMCAから参加し、2泊のキャンプ生活を通して、YMCAキャンプを自らメンバーとして体験し、他YMCAのリーダー達とつながるユニークなプログラムだ。YMCAやリーダーの何たるかを最短期間で知るにはお勧め。ワイズが資金援助している。

MEN'S PHOTO ALBUM

2013/01/15 (衣笠メン提供)



2015/11/11 (衣笠メン提供)

出席者 統計	出席者	会員	ゲスト/ビジター
7月夜談会	2	2	
7月定例会	8	3	5
8月夜談会	6	3	3